平　和　友　の　会　だ　よ　り

第 371 号 2025 年 2 月号

第 233 回平和友の会学習会

表題：「学校の平和教育と平和博物館の協力関係」

子どもたちが受ける平和教育を、講話と参加者の交流で振り返ってみましょう。

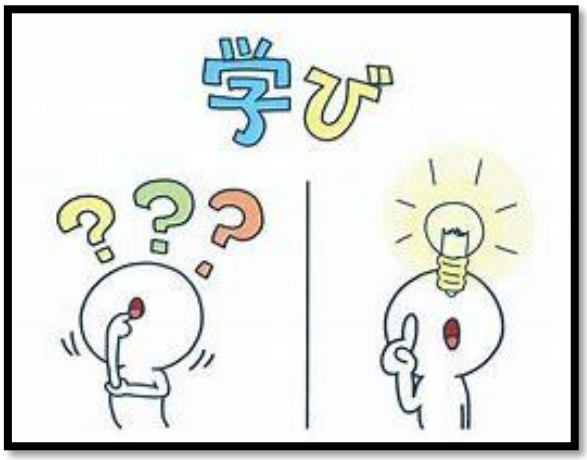
平和ミュージアムを訪問してくださる小・中・高等学校で、平和教育がどのように行なわれているのでしょうか。学校での平和教育が何を目指し、何を教えているのか。学校での平和教育と平和ミュージアムの展示をどう繋いでいけば良いのでしょうか。平和教育は、紛争や戦争が止まらず、気候危機が深刻化する中で、歴史的教訓を伝えると同時に未来の平和をつくる人を育てます。そのためには多様性と包摂を理解し、批判的思考を鍛えて、実践的な行動力を育てることが求められます。ミュージアムでは、被害者への共感を促し、社会的責任を自覚し、相互的な学びがあります。

平和教育と平和博物館との協同の実際は何でしょうか。

日時 ： 2025年3月1日(土)　13:30～16:30

場所 ： 末川記念会館 第 3 会議室

対象 ： 平和友の会会員 及び 学生



講師 ： **村上 登司文さん**

（京都教育大学名誉教授、平和友の会会員）

学習会の進め方：

1）講演時間 ： 約 1 時間 ～ 1 時間 30 分

2）質問と意見交換 ： 残り時間を FULL に使って、参加者全員で学生さんのガイドなど思い浮かべながら、自由に質問・意見交流・討論しましょう！

3）参考 ： 村上さんの「シリーズ平和教育学」オンライン講座　など

＊担当：学習部―問い合わせは森田まで（080−5361−5704）

寄稿　核の大惨事なしに「帝国の時代」を終えられるか
――「核探究」の旅、ウクライナ、ガンジーの視点の導入

藤岡　惇　（経済学者・立命館大学名誉教授・平和友の会会員）

オスロで開かれたノーベル平和賞受賞式の話を花垣ルミさんから伺えるとお聞きし、「平和友の会」の１月の集いに参加しました。初めての方々と多数、お会いでき、嬉しかったです。

現下の私の関心

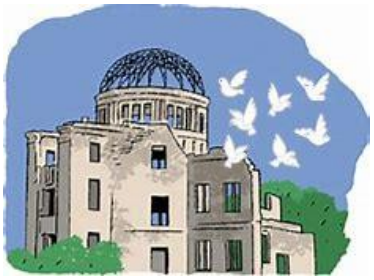
いま本を書いています。『宇宙核戦争 3.0――勝利か、共滅か。前線国＝ウクライナと台湾・日本の運命』というのが仮題です。

「核抑止力の強化」とは何か。中・ロ・北朝鮮など仮想敵国の核戦力を総つぶしし、一方勝ちする態勢を整えること。そのためのカギは、敵国の価値あるもの（大都市の庶民のイノチや財産）を核攻撃し破壊すること（「カウンターバリュウ戦略」）ではありません。敵基地内の戦力のなかに潜む核戦力だけを選定し、これら核戦力のすべてを、まずは味方の非核戦力（たとえば宇宙飛翔体からのレーザー照射など）を用いて、破壊し、無力化する（カウンターフォース戦略）ことです。そうすると、核交戦せずとも、敵の核戦力を総破壊できる。「必勝兵器」という美名を米国の核兵器は取り戻せ、その後は思うままに世界を差配できる。21 世紀の米国の核戦略の基本はここにありました。戦略を立案したのは核・軍産複合体の中枢＝米国のネオコンでした。

中・ロ・北朝鮮の「核戦力」は「敵基地」のなかに隠され、潜んでいます。これら ３ か国の「核戦力」つぶしの先陣を日本が買って出たばあい、東アジアの核戦争の火ぶたを切らされる結果となります。その結果、米国側は圧勝し、日本列島は無傷で残れるのか。逆に返り討ちにあい、日本列島は最初に無人の荒野に化してしまわないか。こういったテーマに関心があります。

ピータ・カズニックさんとの出会い

人生を切り拓いていくうえで、国際平和ミュージアムは決定的な役割を果たしてくれました。2 点に絞って、紹介します。発端は、今から 30 年前の 1994 年８月。アメリカン大学を卒業したばかりの被爆２世の直野章子さん（現在は京都大学人文科学研究所教授）が、ミュージアムに私を訪ねてくれたことでした。1 年後、直野さんとピータ・カズニック教授に引率された AU 生 10 名がミュージアム訪問。その後、広島での被爆 50 周年式典に参加します。私は、立命の平和学受講生 10 名でエスコート団を作りました。アメリカン大学と立命館大の学生間の「核探究の旅」が始まったわけです。



この「核探究の旅」は、私が退職するまで 23 年間続きました。長崎での被爆式典の直後に「被爆者の店」の地下室で、私たち日米の学生と被団協の皆さんとの交流会を開くことが定番の行事となりました。その縁もあり、ピータたちは、「被団協にノーベル平和賞を」という運動を米国で展開してきました。オスロの授賞式にピータが招待され、花垣さんと交流したことを聞き、嬉しかったです。

アルン・ガンジーさんとの出会い

1999 年 11 月末に立命の国際平和ミュージアムを舞台にして、『新たな千年紀を迎える若者たちの国際交流の集い』を開こうという動きが、安斎育郎さんをリーダーに、ミュージアム関係の教員有志で進んでいました。招待講演者候補の一人がマハトマ・ガンジーの 5 人目の孫のアルン・ガンジーさん。アルンと交渉すべく、私は、メン

フィスのクリスチャン・ブラザーズ大学にいたアルンと会い、初の訪日を実現させることができました。

1999 年 11 月 23 日（火）に、妻のスナンダさんとともに来日。11 月 27 日―28 日にミュージアムを舞台にして開催された「新たな千年紀を迎える若者たちの交流の集い」に助言者として参加され、広島・長崎・沖縄の地を回ってもらいました。

アルンの著作（Arun Gandhi, The Gift of Anger）が 2017 年に出版され、6 年後の 2023 年 5 月 2 日、亡くなりました。遺著の日本語訳が、昨年 6 月に完成。アルン・ガンディ『おじいちゃんが教えてくれた、人として大切なこと』24 年 6 月、ダイヤモンド社がそれです。「怒りは賢く使い、真実と愛の力で世界を動かしなさい」と彼は訴えています。

展望――賢いポピュリズムを

昨年 12 月 7 日に大畑豊さんと君島東彦館長のお二人が交わされた「〈非暴力〉という生き方――阿波根昌鴻から何を学ぶか」という集まりに参加し、刺激を受けました。

伊江島の米軍基地を撤去するための闘いを強めるために、島の若者を東京の中央労働学院に送り、マルクスを学ぶ。とともに京都の一灯園（西田天香）にも送り、ガンジー精神を学んでもらう。このマルクスとガンジーの高次統合という理念にもとづいて、伊江島にデンマーク式農民学校を創ろうというのが阿波根さんの夢であったという話でした。

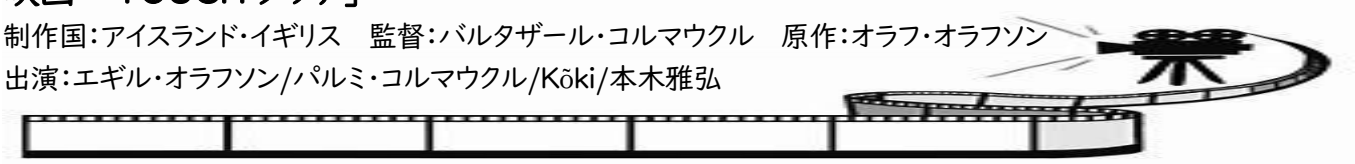
残念ながらトランプにも、プーチンにも、このようなガンジーの視点は薄い。アメリカ帝国の没落が、宇宙核戦争の引き金となる危険があります。何をなすべきか。ともに考えていきましょう。

関心をお持ちの方は、藤岡のホームページ
http://eco-economy.ever.jp/wp/
をご覧ください。ご質問は、
fujioka@ec.ritsumei.ac.jp

映画案内 **********

映画：「TOUCH タッチ」

制作国：アイスランド・イギリス　監督：バルタザール・コルマウクル　原作：オラフ・オラフソン
出演：エギル・オラフソン/パルミ・コルマウクル/Kōki/本木雅弘



日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞した2024年に公開された映画としても記憶に残るだろう。放射能の影響がよくわからなかった時代における「ヒバクシャ」の葛藤や不安、人生への影響について、観る者に多くのことを考えさせる映画である。2023年に公開された映画「オッペンハイマー」（世界初の原子爆弾を開発した、ロバート・オッペンハイマーの生涯）とはまた違った手法で、核の恐ろしさを糾弾したこの映画に、私は静かに深い感銘を受けた。それは「ヒバクシャ」の存在に深く切り込んでいるかどうかの違いかもしれない。

予告編を見た時点では、本木雅弘が目立っていて、さほど観たいという気にはならなかったが、彼が出演する映画やテレビの内容には何がしかの価値を感じていた。そのうちに、この映画の原作が2020年にアイスランドでベストセラーになった小説であり、原作者自身がこの映画の脚本を担当していること、主人公が初期の認知症であるという点で、私はこの映画に興味をいだいた。

物語は、妻に先立たれ認知症初期と診断された主人公が、医師から「人生でやり残したこと」を問われ、50年前にロンドンで愛し合った日本人の女性がなぜ突然自分の前から姿を消したのか、記憶を失ってしまう前にその謎を解き明かす旅（アイスランド、ロンドン、広島）に出るストーリーだった。しかし、単なるラブストーリーではなかった。時代背景として、戦争、原爆、コロナウイルスのパンデミックが描かれ、世界を広く深く見つめた作品であった。私はアイスランド人が監督のこの映画をより多くの日本人に、そして世界の人々に観て欲しいと強く思った。

（小野　房子 記）

「語り部」

高見　祥一

読売新聞に「戦後80年へ「語り部」育成に力、国の補助4倍で1億円に」という見出しの記事が出ていました。戦争体験を継承する「語り部」育成事業を日本遺族会がおこなっていて、厚労省がその事業のための補助金を4倍にするというのです。

戦争体験を語り継ぐ活動が広まり、行政もそれを支援するという動きには、諸手を挙げて賛成です。証言活動が認められた被団協のノーベル平和賞受賞と相まって、その気運がどんどん高まればいいと思います。しかしこの記事には気になることが二点あります。

ひとつは「語り部」という言葉です。よく読むと、厚労省がこの言葉を使っているかどうかは定かではありませんが、遺族会や読売新聞が使用しているのは明確です。戦争や災害の体験者で、それを証言してくださる方のことを「語り部」と表現することが実際にしばしばあります。

「語り部」は古代天皇制における言葉でした。大和朝廷、あるいは律令制度のもと、技術者集団としておかれたのが「品部」で、「語り部」はそのひとつです。世界大百科事典の「語り部」の説明（執筆者：倉塚曄子）では、天皇の即位儀礼に諸国から召された語り部が＜古詞＞を奏したとされ、「その奏上は服属の誓いを意味した」と書かれています。古代天皇制の用語を無神経に使いたくありませんし、職務として上位の者におべんちゃらを言う「語り部」と、切実な思いで証言活動をする人をいっしょくたにしてほしくはありません。

もうひとつは、国が後押しするのは遺族会だけなのか、さまざまな立場で平和教育を進めようとする人やグループには支援しないのか、という点です。日本遺族会というのは自民党の強力な支持団体で「英霊の顕彰」を第一の目的とする会です。なるほど、その目的のために語るから「語り部」だというのなら腑に落ちます。国に都合のいいきれい事を語り伝えるのが「語り部」活動なら、どうかやめてもらいたいものです。

記事のさいごで識者（二松学舎大・林英一准教授）は「語り部は体験した戦争を感情の面でも記憶している。対面で語り継ぐことで、当時の様子がわかる場所や物だけでは理解できない記憶も伝えられる。聞き手と対話もできるため、共感を深めやすい」と言っていますが、証言活動がそういう力を持つことは確かです。それだからこそ、体験の継承は被害体験一辺倒や戦死者賛美にならないように気をつける必要があります。何かに奉仕する「語り部」ではなく、自分の意志で大切だと思うことを伝えていく「証言者」「伝承者」として活動しようとする人たちを支援するためにこそ、国はお金を使ってほしいと思います。

平和友の会2025年3月例会（ガイド部会）のご案内

とき：　3月17日（月）13:30−16:00

ところ：立命館大学末川記念会館第3会議室

内容：　「2025年平和のための京都の戦争展」に関する意見交換、
ガイド活動、うた、会員相互の交流など

****

お知らせとお願い

① ２月の例会後に、「平和のための京都の戦争展平和友の会実行委員会」を立ち上げます。多くの方の参加をお願いします。多くの会員が少しずつ、出来る範囲内で関与し協力しながら戦争展を盛り上げましょう！

② 「2025 年平和のための京都の戦争展」に向けた議論が始まっています。

日程案:7 月 26 日（土）～8 月 2 日（土）、ただし 7 月 27 日（日）を除く

会場は国際平和ミュージアム中心です。平和友の会では、「物を見せ、物に語らせる」ことを重視した展示企画として、国際平和ミュージアムの収蔵品のガイドをする案が出ています。10 月号会報での田鍬さんの寄稿によると、46、000 点の収蔵資料の中で現在展示されているのは 220 点前後です。どの収蔵品を戦争展に出品するのか、早急にご意見を運営委員あるいは、fusakoo87@gmail.com にお寄せください。

③ 第33回平和友の会総会（ぜひ、予定しておいてください）

とき:2025年4月29日（祝・火）13:00～16:00

ところ:立命館大学末川記念会館２階第３会議室（予定）

＊4 月 3 日の会計監査後に議案書を印刷・郵送します。出欠ハガキは出席の方も 4 月 24 日（木）必着でご返送下さい。

****

連載②　博物館探訪記（台湾編）

左営軍区故事館　　清水　郁子

前回の「戦争と平和記念公園テーマ館」に続き、今回は台湾の高雄市左営にある「左営軍区故事館」を紹介します。こちらもベストセラー『地球の歩き方　台南　高雄』には出てこない少しマニアックな館です。MRT（地下鉄）の「世運」駅から徒歩約 40 分（歩きました）のところに「左営軍区故事館」はあります。駅を降りてから駅名にちなんだ大規模スポーツ施設もあるのですが、延々と広がるのは台湾海軍施設です。ゲートが開くと機関銃を背負った兵士の姿も見られます。最高軍事法院検察署、海軍兵学校なども道路沿いに見ることができます。

「左営軍区故事館」に到着したのは午後 1 時、昼休憩中で午後の開館は 2 時となっています。ふと横の建物を見ると「レストラン」があるようなので、ちゃっかり入り込み、チャーハンと魚香茄子で遅めの昼ご飯をいただきました。そして 2 時少し前に故事館へ、おばちゃんが「入ってもいいよ」というので、午後一番乗りで故事館に入りました。

見学順序に沿って進むと、最初に見えるのが左営軍区の大ジオラマ、軍区の規模を実感し、次が古代から明・清朝までの左営地域の歴史展示、その次が日本統治期・第二次大戦中の左営軍区が紹介されています。

1871 年琉球の宮古島島民が漂着し、原住民により 54 人が殺害される牡丹社事件が発生し、日本政府は 1874 年に陸軍中将西郷従道を台湾に派遣し、原住民の制圧を行います。1894 年には朝鮮で東学党の乱から甲午戦争・日清戦争へ、1895 年の「下関条約」の調印により台

湾、澎湖諸島と遼東半島が日本に割譲された歴史が紹介されています。この後 50 年間が日本統治期となりますが、当初、台湾の民衆は清朝による台湾割譲に怒りの声を上げ、果敢な抵抗を行いますが、日本軍の上陸後には敗退が進み、遂に日本帝国の版図となります。

第二次大戦中、日本は台湾を南進基地と南進のための踏切板として運用します。こうして 1937 年から、高雄市の寿山北方の小さな漁港であった萬丹は大きく姿を変え、北は援中港、東は半屏山、南は寿山の南までの総面積3700万坪に、警備府、宿舎、工廠、軍需部、皆兵団、病院や第六燃料廠などが設置される重要な軍事基地・左営軍港となります。

台湾総督府は「基地化」政策を推進するため、1937 年 8 月に南台湾の防衛のため高雄要塞を設置し、艦船の修繕、軍需補給等南進の重要基地としました。1941 年に日本海軍は緊急対策として左営に「第六燃料廠」を設置し、南洋から送られる原油を製錬し、太平洋戦争中の戦闘機や軍艦の燃料として供給します。1943 年に内閣総理大臣東條英機は「馬公警備府」の左営移設を指示し、「高雄警備府」と命名、台湾における日本海軍の最高司令機関となります。このように日本統治時代に左営軍区は整備・完成し、陸地、水上の飛行場のみならず、海軍士官のための「水交社」「海仁会」等の宿舎、海軍病院や「震洋隊」の基地建設も行われました。

次に 2 階の展示室に至る階段の壁に、1941 年の真珠湾攻撃以降の様子が展示されています。日本軍の南進のための重要基地である台湾が空襲の目標地となったのです。1943 年 11 月から日本軍の投降までの間に、左営、高雄地区の港、飛行場、燃料廠、兵営と軍需工場を目標とした空襲により、46,318 棟の建物は全壊し、15,772 名が死亡しました。

2 階は戦後の展示となります。日本統治が終わったときに、左営軍区は満身創痍で基地施設は破壊しつくされ、港には日本の沈没した軍艦が放置され、港としての機能も壊滅的状況でした。1949 年に整備計画に着手し、5 月に海軍総司令部を左営軍区に移設し、1952 年に台北の圓山に移設していた海軍訓練所を再移設し、左営軍区は整備が進み、海軍の主要基地として発展を遂げていくこととなります。また、1950 年に朝鮮戦争が勃発すると米政府は米軍の海軍組織を左営軍区に設置し、1979 年の米軍撤退までの 28 年間駐留し、左営軍区はさらに海軍基地として発展することとなります。

その他、海軍子弟学校（上の写真）や軍人家庭の再現模型の展示がされています。2 階展示の最後には現代化された台湾海軍の最新装備が展示されています。

台湾の歴史を見ると、沖縄とダブる歴史を感じます。日本軍や米軍の前線基地としての役割を押し付けられ、「キーストーン」から「捨て石」という言葉が頭をよぎります。戦争のための基地設置、戦争による基地破壊、そしてまた戦争のための基地復興、台湾で基地問題を考えこんでしまいました。

最後に、本当は最初に見るべき 1 階のジオラマに映し出された映像を見て帰ろうとすると、おばちゃんが「写真を撮ってあげるから、錨の中に立ちなさい。」と言うので、記念撮影（右の写真）をして館を後にしました。

（連載 16）

「私の十五年戦争」（抜粋）

小畑　哲雄

第五章（一の後半）

八月十四日の早朝、先発の三個区隊は小銃を二丁ずつ担いで、会津若松へ向かった。残りの半分は、二十日出発となっていた。

その日の夜半、空襲警報で起こされた。夕食のとき、週番士官が伝えた情報では、敵大編隊の爆撃が予想される、ということで、食後、私たちは米を倉庫から地下の壕に移す作業をさせられたのだが、敵機はその夜、東京には来なかった。

防空壕の近くで、銃を抱えたまま待機していた私のところに、取締生徒がやってきた。

「あす、三十名が若松に出発することになった、貴様もその中に入っているぞ」

私たちのところでは、週の前半と後半、交代で生徒が『勤務』につくことになっていた。勤務についている者はその間、上級者となるから、その命令に従わなければならない。たとえ戦友であっても、こちらは敬語を使わなければならない。たとえば、「取締生徒殿、厠に行ってよくありますか」というようにである。ただし、それ(『勤務生徒』)が三日か四日で代わる、というところに、この仕組みの妙味があった。

翌週もまた空襲警報から始まった。それが解除になったのが、午前八時少し前であった。週番士官がこう伝えた。

「本日正午、陛下のご放送がある。全員儀式の服装で中隊事務室に集合、なお、本日出発となったものの軍装検査は、午前十一時、各自の寝室で行う」

週番士官上条主計中尉の顔が、その時歪んで見えた。

軍装検査ではこう言い渡された。

「ハサミを上着の物入れ――日本陸軍では、服のポケットのことをそう呼んでいた――に入れておけ。将校生徒であることがわかるような襟章などは、すぐ処分できるように。なお、午後二時、もう一度軍装検査を行う。このときは完全軍装、そのさい実包を支給する」

『実包』と聞いて、私は思わずはっとした。敵は目前に現れるというのであろうか。

正午少し前、事務室に集合した。週番下士官がラジオのスイッチを入れる。

「東部軍情報、関東地区に敵機なお数目標あるも、空襲警報を解除す」

しばらくは雑音だけでなにも聞こえなかったスピーカーから『君が代』が聞こえだした。

「気をつけェ」

中隊事務室にギュウギュウづめであったが、みな緊張した表情だった。床の上を靴が滑る音がしていたが、それもほんのわずかな間で静かになった。

雑音の多い放送であった。

『玉音放送』は聞き取りにくかったが、戦況は大変だから、国民はしっかり頑張れ、というようなことだろうと考えながら、はじめての『現人神』の声を私は聞いていた。そして、今朝、「陛下のご放送がある」と聞かされたあと、寝室で戦友たちと交わした会話を思い出していた。

「いったいなにのご放送かな」

銃の手入れをしながら、一人がその疑問を口にした。だれもが思っていることであった。

「まさか、降伏するのとちがうだろうな」

別の誰かがそう言った時、寝室内で、銃、銃剣の手入れをしていた二十人ばかりは、ぴたりと話をやめてしまった。沈黙が室内を支配し、金属の触れ合う音だけがしていた。

「バカなことを言うな。男がだな、…男がいちどはじめたケンカを、途中でやめられるかってんだ」

その場の沈黙に反発するようにだれかが怒鳴っていた。それをしおに、みなはまた、話を始めた。しかし、その沈黙の一瞬の記憶は、私の心の中に、深く深くしみこんでいた。あれは、自分の意識の底に潜む不安をのぞきこんでいたための沈黙であったのだろうか・・・。

第 10 回および第 11 回運営委員会報告

1月 30 日に臨時で第 10 回運営委員会を開催しました。ここでは「平和のための京都の戦争展 2025」のあり方について意見交換を行いました。

また、2 月 12 日開催の第 11 回運営委員会（Zoom）には、運営委員（6 名）が参加し、意見交換を行いました。今回の司会は鳥羽さんでした。第 11 回では第 10 回を踏まえた意見交換を行っていますので、以下では第 11 回について報告します。

第 11 回運営委員会では、2025 年戦争展実行委員会のあり方、2025 年総会議案書の内容について重点的に意見交換をしました。2025 年戦争展にむけては 2 つの企画について意見交換しています。講演会企画については「被爆体験の実相を伝える」テーマで講師を検討すること、展示企画については「被爆資料」を中心に資料選定を行うことを確認し、2 月 17 日の例会後に開催する「平和友の会戦争展実行委員会」で具体化することとしました。例年おこなっている地階常設展ガイドは実施する方向ですが、古本市については検討中です。総会議案書については 4 月上旬にみなさまにお送りできるよう議論を始めたところです。

会計からは、2024 年度の会費納入状況として、正会員 82 名（88 名中）、賛助会員 13 名（16 名中）、合計 95 名が納入済であるとの報告がありました。　　（清水　郁子 記）

1月例会（ガイド部会）報告

1月22日（月）13:30～16:00 末川記念会館第 3 会議室、32 名出席

今回の例会は、「2025 年新春のつどい」と銘打ち、お菓子（阿舎利餅他）とお茶を準備しての開催となりました。いつもより少し多い 32 名の会員の参加があり、熱気と活気にあふれた例会となりました。（実は参加を 30 名以下と見誤った四役は「お茶とお菓子が足りない！」と内心大焦りでした。嬉しい誤算です。）

最初はメインイベントの「花垣ルミさんのオスロ報告」です。被団協のノーベル平和賞受賞を聞いてから原水爆禁止日本協議会主催の「祝!日本被団協ノーベル平和賞授賞式行動ツアー」参加の中で、花垣さんが感じられたことをお話いただきました。現地では、田中熙巳さんの演説に涙する人々の様子やアメリカやノルウェーの青年との交流が強く印象に残ったとのことです。また、今年こそ日本政府が「核兵器禁止条約」を批准するための運動が大切であり、署名運動の大切さを参加者一同が確認しました。

次は久しぶりの「歌」の時間です。1960 年代後半にヒットした「友よ」と「風」を鳥羽さんの伴奏に合わせて合唱しました。

その後のガイド部会報告の中では、避難訓練で示された「避難経路」をラミネートして控室の茶箱にいること、2025 年のガイド登録の案内は2月に予定されていることが報告され、「平和創造ワークショップの内容はぜひ報告いただきたい」とのご意見をいただきました。

最後に全体の交流の中で出された発言の中から以下を共有させていただきます。

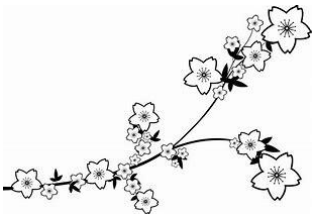
・平和友の会では「先生」という呼称は使わず「さん」で。

・新展示ガイドでは「対話」が求められているが、年齢によっては「教えること、説明すること」、「どう思う？一緒に考える」ことが大切なのではないか。

・平和のための京都の戦争展でモノ展示をぜひ。9条タペストリー、従軍慰安婦の写真やかつての南京展で展示した日本による加害の実態等。

インフルエンザが流行しています。みなさま、体調には十分に留意され、2月の例会でお会いできるのを楽しみにしています。　　（清水　郁子 記）

英語係からの報告



（1）2025 年 1 月の活動

●ミュージアムにて英語ガイド実習

（3 名参加）1 月 21 日（火）11:00～

<内容>

①戦時中の家屋内外の道具を英語で説明。例えば空襲時の火消しに使うもの等。

②広島・長崎原爆投下～今日（被団協がノーベル平和賞を受賞した）までの 80 年間について、ミュージアムではどのように展示、英語で説明されているかをチェックし、若干の討論

<取り組みを終えて>

ますますの学習・研鑽を積む必要性を痛感。

特に核兵器廃絶に関わる問題や運動の歴史等。

●Zoom 学習会

1 月 27 日（月）19:30～20:45（5 名参加、内 1 名ヴェトナムからの留学生）

<内容>

図録英語版の読み合わせ&ディスカッション

P21 The Asia-Africa Conference (The Bandung Conference) 1955～

P22 Beheiren in the Kansai Region and the Anti-War EXPO movement まで

<取り組みを終えて>

内容がバンドン会議やベトナム戦争に関わっていたので、ヴェトナム人留学生の参加はタイムリーだった。ベ平連の活動の記述では話が盛り上がった。「京都三条大橋での『橋の下大学=Underbridge University』」も興味深いものだった。

（2）2 月の活動予定

・2 月 21 日（金）16 時 20 分～ 英語ガイド

国際関係学部越智先生ご紹介の「War Crimes Archiving」のみなさん 27 人とミュージアムを巡る

・2 月 25 日（火）9:30～10:30 ミュージアム内で英語ガイド実習

・2 月 26 日（水）19:30～20:30 Zoom 学習会

ノーベル平和賞受賞式での田中熙巳被団協代表のスピーチを題材にして

（3）その他

留学生ガイドには、来月の Zoom 学習会にも参加を呼びかけ、参加予定の返事をもらった。今後も学習会等に参加を呼びかけて共に学ぶ場を作っていきたい。

（汐崎 啓子 記）

夫はまだらな認知症　　No.10「相談」

私の父は事業家であった。小学校就学前からかなり長い間、定期的な小遣いをもらった記憶はない。必要な時におねだりするのだが、そのおねだりもあまり記憶がない。ただし、1 年に 1 度だけ、お年玉は子どもには少々大き過ぎる金額を私たち兄弟（兄・私・弟）と祖母に提供した。そのお金を一人ひとりに渡すのではない。ドンと大きな金額を 4 人の前に置き、「それぞれの取り分は話し合いで決めろ」というやり方だった。祖母は私たち（子どもたち）の主張を聞いているだけで自分の取り分を主張することはなかったが、道理に合わない主張には口を挟んだ。今から思えば、父と祖母の特に兄対象の共同作業だったのかもしれない。毎年、年が近い兄と私との争奪戦となった。少しでも多くのお年玉を得るために、あることないこと、説得するために必死で考えたものである。そのことで私たち子どもたちが交渉力や思いやり、ひいては妥協する力なども身についたかどうかはさておき、それは父の教育方針の一つであった。

そういうわけで、私の子育ては、子どもが判断するにはまだ早いと思われる年頃から、できるだけ事情を説明し、本人にも決める機会を与えてきたつもりである。（子どもからすれば説明なしに親の都合で振り回されることがあったかもしれないが。）

認知症の対応は子育ての逆ベクトルである。夫婦間でもお互いに何事も話し合って決めた。夫は家庭内での口論(?!)を極力嫌ったので、言い出した方の意見を相手が承諾するのが通常であった。内心決めていることでも建前として相談という形をとった。しかし、ある時から、その相談が機能しなくなった。「どっちなのかはっきり言って!」と言われるようになり、レストランでメニューを決めるときでさえ「同じものを!」で済ませるようになった。私としては選択肢を提示して相談しているつもりなのだが、それは夫をかえって混乱させていたようである。とりわけ迷いながらの相談はご法度になった。身体的にできなくなったことは目に見えるが、認知に関しては話をする中でこそ変化に気づきやすい。お互いが空気のような存在になっていたとしてもやはり日頃のコミューニケーションが大切である。

（アリス）

「平和友の会」は、参加団体として名前を連ねています。3月23日（日）は核兵器廃絶に向けて、他の市民団体と連帯して力強く踏み出すための取り組みです。是非とも多くの参加でこのイベントを成功させましょう!!

日本被団協ノーベル平和賞授賞式報告会～核兵器のない地球をつくる力に!!～

ノルウェー国会前で（12月9日）

さあ!! 核兵器のない地球へ

参加した4人による報告と討論

京都の多くの市民から寄せられた派遣カンパによって、花垣ルミさんをノルウエー・オスロでのノーベル平和賞授賞式ツアーに送ることができました。被爆80年の2025年は大きな節目。ノーベル平和賞受賞を跳躍台に、日本政府が核兵器禁止条約にサインするような大きな運動を、みなさんと一緒にくり広げたいと思います。

京都の職人さん手作りの銅製の折り鶴を寄贈（12月10日）

3月23日（日）午後1時30分～4時30分
（午後1時開場）

キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室

1部開会午後1時30分

●講演

「核兵器 禁止から廃絶へ」
川崎 哲さん
（核兵器廃絶国際キャンペーン〈ICAN〉国際運営委員兼会長）

●報告

①「核兵器も戦争もだめ!! ツアー報告」
花垣 ルミさん
（京都原水爆被災者懇談会世話人代表）

2部開会午後3時00分

②「核兵器廃絶運動と非同盟運動」
小林 立雄さん
（被爆二世、宮城県原水協理事）

③「核兵器に対する視点を変えるための声を」
林田光弘さん
（被爆三世、元高校生平和大使）

●4人の意見交換

参加費は無料です

ガザの青年と「戦争も核もない世界」を、あきらめずにともに頑張りましょうと語り合いました（12月11日）

主催●花垣ルミさんをノーベル平和賞授賞式に送る会

【参加団体】京都総評、京都府生活協同組合連合会、核兵器廃絶ネットワーク京都、アボリション2000京都、京都宗教者平和協議会、日本科学者会議京都支部、平和友の会、原水爆禁止京都協議会、京都原水爆被災者懇談会、京都被爆二世・三世の会、非核の政府を求める京都の会、反核京都医師の会／IPPNW京都府支部、原発ゼロをめざす左京の会（順不同）

後援●コンシューマーズ京都、京都生活協同組合、京都YMCA、京都YWCA

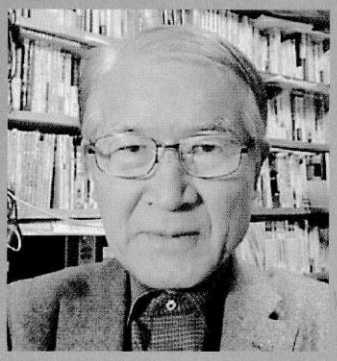
【連絡先】非核の政府を求める京都の会
tel. 075-771-0729 E-mail : hikaku-kyoto@nifty.com

講演●川崎　哲（かわさき あきら）

ピースボート共同代表。2017年のノーベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」の国際運営委員兼会長。核兵器廃絶日本NGO連絡会の共同代表として、NGO間の連携および政府との対話促進に尽力。一般社団法人「核兵器をなくす日本キャンペーン」専務理事。ピースボートでは地球大学プログラムや「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」をコーディネート。立教大学兼任講師。日本平和学会理事。著書に『核兵器 禁止から廃絶へ』（岩波ブックレット、2021）、『僕の仕事は、世界を平和にすること。』（旬報社、2023）、『戦争ではなく平和の準備を』（共編著、地平社、2024）、『核兵器はなくせる』（岩波ジュニア新書、2018）など。2021年、第33回谷本清平和賞受賞。1968年東京生まれ、東京大学法学部卒。

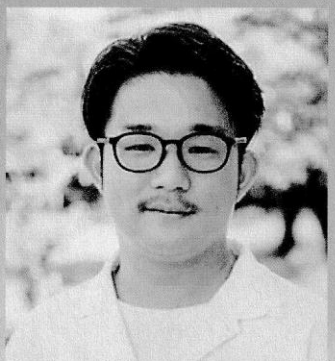
報告① 花垣ルミ（はながき るみ）

1940年3月25日大阪市生まれ（京都市在住）。5歳の時、爆心地から1.7ｋｍの疎開していた叔母の家で被爆。逃避途上の悲惨な状況と人間を茶毘にふす強烈な臭いで失神し、記憶を失うも58年後に記憶が戻り、「被爆者として生きる」ことを決断。「語り部」として国内100か所以上で被爆の実相を語り、海外では2010年、2015年の訪米時に活動。2010年オハイオ州では一般家庭やハイスクールなど10か所で行う。現在、京都原水爆被災者懇談会世話人代表、非核の政府を求める京都の会共同代表、被爆者証言の世界化ネットワーク（NET-GTAS）顧問。



報告② 小林立雄（こばやし たつお）

被爆二世、1948年生まれ。京都被爆二世三世の会会員、宮城県AALA事務局長、日本科学者会議原子力問題委員。江田島の海軍兵学校の教員だった父親が、原爆投下直後に広島市内に救護のために入市。学生は救援に行かず非番の教員が行ったとのこと。「防空壕の入り口には、中にいた人は熱くて外に出ようとし、外の人は熱くて中に入ろうとしたらしく、人が折り重なっていた」と父親は語っていた。大学、大学院で物理学を研究し、原爆と原発がコインの裏表であることを理解。「放射線は生命と相いれないこと」を解明し、「科学の到達を判断の基準とすべき」と考え、核兵器と原発の廃止を求めて運動を展開している。



報告③ 林田光弘（はやしだ みつひろ）

被爆三世、長崎・浦上に生まれ育つ。中学3年の時に核兵器のない世界を求める高校生一万人署名活動に参加して以来、平和活動を続けている。核兵器をなくす日本キャンペーン長崎コーディネーター、一般社団法人Peace Education Lab Nagasaki代表理事。2016～2020年ヒバクシャ国際署名のキャンペーンリーダー。2021～2023年度長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員として「被爆前の日常アーカイブ」を作成。2023年、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会作成のデジタルアーカイブ「NO MORE HIROSHIMA NAGASAKI MUSEUM」を作成。2024年、「地球市民フェス」の総合プロデューサーを務める。

司会進行●倉本芽美（くらもと めみ）

2002年生まれ、広島県出身。立命館大学国際関係学部3年。2022年10月から学生団体「KNOW NUKES TOKYO」共同代表。2023年6月から「議員ウォッチ」に所属し、核兵器廃絶めざし市民との対話イベントや政治家との面会を行う。2023年9月から「立命館大学国際平和ミュージアム」学生スタッフ。2024年5月から「核兵器をなくす日本キャンペーン」インターンとして、NPT会議中継など現場からの情報発信を担当。

司会進行●寺島拓人（てらしま たくと）

1987年生まれ。民青同盟京都府委員会委員長。立命館大学文学部卒。学生時代は自治会運動に参加し学費運動を中心に取り組みつつ、毎年の原水爆禁止世界大会に参加。2008年、文学部自治会委員長として平和委員会を再建し、12月8日の不戦のつどいに併せて学部ラウンジにパネル展示を行う。2009年の不戦のつどいでは、学友会中央常任委員長として参加し、「二度とペンを銃に持ち替えない」と決意を語った。

<今後の予定>

月日	曜	時間	場所	内容
2/17	月	13:30～	末川第3	例会/ガイド部会
2/19	水	10:00	ミュージアム	ミュージアムとの定例打合せ
2/21	金			ガイド継続登録説明会への出席連絡締切
2/25	火	9:30	ミュージアム	英語係研修会
2/26	水	14:00	ミュージアム	ガイド継続登録説明会①
2/26	水	19:30	Zoom	英語係研修会
3/1	土	13:30～	末川第3	学習会（講師:村上登司文さん）
3/7	金	14:00～	ミュージアム	ガイド継続登録説明会②
3/12	水	19:30～	Zoom	運営委員会（議案書）
3/14	金	19:30～	Zoom	3月号会報広報部会編集会議
3/15	土	13:00～	ひとまち	3月号会報印刷・発送
3/17	月	10:00～	末川第3	運営委員会（議案書）
3/17	月	13:30～	末川第3	例会・ガイド部会
4/2	水	19:30～	Zoom	運営委員会（決算、予算確認）
4/3	木	14:00	ひとまち	会計監査（幾波、山本）
4/5	土	13:00	ひとまち	総会議案印刷・発送
4/24	木			総会の返信ハガキ必着締切
4/29	火・祝	13:00	末川第3（予定）	第33回平和友の会総会

【 編集後記 】 2025年2月号 【故郷・綾部市が撮影現場に】

ドラマ「アリスさんちの囲炉裏端」は「ヤングジャンプ」に連載されていたコミックをテレビドラマ化したもので、今年の1月7日より放送開始されている。

ドラマの内容は、10年ぶりに東京から帰ってきたアリスさんが、年下の幼なじみ（高校生の設定）と紡いでいく恋愛物語である。

古民家の囲炉裏端で、アリスさんが作る料理が、大きな役割を占めている。それは、とても丁寧に描かれていておいしそうである。そして、なんと撮影現場が、私の故郷の綾部市なのである。何の変哲もないこんな田舎が、ドラマの舞台になるなんて、正直驚いた。最近の、凝りに凝った、あるいは、どぎついドラマの中にあって、実に穏やかでほのぼのとしていて、安心して見ていられる。ことに、綾部の知っている場所が登場するとわくわくする。通学していた、高校や何度も足を運ぶ駅など見飽きているはずなのに、ドラマの中では、また別の輝きを放つ。

これから、二人の恋の行方とどんな料理出てくるのかが楽しみである。 (K子)

平和友の会（郵送の場合は以下のメールボックス宛に）

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上の口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館京都 2階

京都市市民活動交流センターメールボックス№3